

令和3年度 学校自己評価

丹波篠山市立篠山養護学校

評価 A: ほぼあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: ほとんどあてはまらない

評価項目	自己評価(%)				総合評価	成果・課題・改善策	
	A	B	C	D			
I 教育課程・学力向上	1	67	33	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画の中で、個別の指導計画検討期間の位置づけが定着してきている。チーム検討の重要性を多くの教員が意識して取り組んでいる。【教育課程】 保護者の願いを知り、共通理解を図りながら、チームで検討することができた。【幼小学部】 日々の授業や学部行事などの際に、さらに活発な意思疎通をし、指導計画については学期始めに保護者と十分に共通理解をしていく。【中学部】
	2	62	38	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の願いを確認し、幼児生の実態把握を重視した指導と支援が進められている。【教育課程】 作成した支援計画、指導計画にそって、指導方法を工夫しながら指導、支援を進めることができた。【幼小学部】【中学部】
	3	43	57	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標が難しく、評価しづらいときがある。担任と教科担任で、共通理解しながら、進めていくことが大切である。【高等部】 別室やZOOM、拡声器の利用、教室内で少し距離をとっての授業参加、自転車通学に向けた練習など、保護者の理解と協力を得ながら進めることができた【中学部】 他のクラスの幼児生について共通理解をする時間を確保したい。学部会の中で、あるクラス、個人についての課題を共通理解する時間を設定するなどすればよいのではないか。【幼小学部】
	4	31	67	2	0	B	<ul style="list-style-type: none"> 希望制ではなく、全幼児生を対象に見てもらえる仕組みが必要である。(気軽に相談できる体制。【高等部】 コロナの状況下で考えられる、最大限に可能な取り組みができています。【中学部】 招聘講師に指導してもらったことを学部内で共通理解する。同じ幼児生を複数回見てもらえると伸びを比較することができるのではないか。【幼小学部】
	5	93	7	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ねらいと目的を持った行事、学習ができた。【中学部】 学部全体で行うことは難しかったが、1・2組、3・4組、5・6組など、それぞれにねらいを明確にして実施できた。【幼小学部】
	6	69	31	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> 執行部や委員会に関わる教師全員で役割分担をしたことで、新しい試みやアイデアがあり、活発に自治活動ができた。来年度以降もこの形で進めたい。【児童生徒活動部】
	7	2	83	14	0	B	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習で市内在住の方にお越しいただいた。教材ではないが、市内各施設を使用することでふるさと教育もできた。【中学部】 緊急事態宣言やコロナの影響が大きかった。その状況でできることをやっていく必要がある。【幼小学部】

Ⅱ キャリア教育・進路指導	8	基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成している。	71	29	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識して行動することへのはたらきかけができた。しかし、「確立」→「自立」には、保護者の協力が不可欠である。【中学部】 ・一人一人で課題は違うが、その子に応じて引き続き支援していく。【幼小小学部】
	9	キャリア教育「つきたい力」リスト・個別のチェックシート等をもとに、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、授業改善に取り組んでいる。	52	48	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点を指導案に入れることで、キャリアの視点を意識した授業づくりにつながった。今後も実態把握の1つとして、研究推進委員会と連携し継続していきたい。【キャリア教育】 ・個別のチェックシートについて、サイボウズで活用方法を紹介する等の推進を図った。今後も幼児生の実態に合う項目となるようマイナーチェンジは重ねるが、大枠は現行の項目で実施する。【キャリア教育】
	10	作業学習、職場・施設実習、自然体験等を中心に、体験的な学習の充実に努めている。	93	7	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったが高等部生徒全員に現場・施設実習を実施できて、生徒達の卒業後の進路選択の意識づけができた。【進路】 ・中学部生徒・教師を実習報告会に招き、高等部生徒の頑張りを発信して生徒同士の交流ができた【進路】 ・計画的に進めることができた。【中学部】 ・中学部と協力して自然体験学習を実施できた。【幼小小学部】
	11	外部関係機関との連携を密にして、一貫性のある進路指導ができています。	86	14	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・事業所の本校生徒への理解・協力のもと進路指導ができています。【進路】 ・教師間の連携を密にする必要がある。【高等部】 ・他学部にも進路決定までの手順を知ってもらうことが大切である。【高等部】

Ⅲ 防災安全・危機対応・生徒指導・地域との連携	12	学校事故や災害時等の緊急事態発生時の対応・体制づくりが図られている。	76	24	0	0	A	・各種マニュアルが多いため、すぐに把握できるように職員室等に掲示をするのがよい。【総務】
	13	定期的な安全点検の実施、施設・設備の安全管理が図られている。	95	5	0	0	A	・複数で点検するだけでなく、学期ごとにペアを交代しているため、より複数の目で施設・設備の点検ができています。【総務】
	14	シュミレーション研修、救急法の研修等、関係諸機関と連携して、教職員の実践的な研修や訓練ができています。	95	5	0	0	A	・コロナ禍の中ではあるが、保健部と連携しながら可能な範囲で講師を招聘し、教師の安全や救護に関する知識・スキルを身に付けられるように進めていきたい。【総務】 ・コロナ対応・対策に十分配慮しながら、緊急時のシュミレーション研修を必要に応じて行い、職員が迅速かつ適切に対応ができるよう、総務部と連携しながら研修を進めていきたい。【保健】
	15	保護者や関係機関との連携を図り、適切な医療的ケアや保健指導が推進できている。	79	21	0	0	A	・法整備に伴い、来年度は市の新しいガイドラインに沿って医療的ケアを推進していく。【医療的ケア・保健】 ・来年度は、医療的ケア推進委員会ですらに情報共有を図るとともに、委員会の内容や幼児生の学びの様子等を、職員会議で定例報告する。【医療的ケア・保健】
	16	教職員もPTA活動に参画し、PTA事業の充実を図っている。	12	88	0	0	B	・社会状況が改善すれば、当然参画する。【中学部】 ・コロナ禍の中でできなかったことが多かった。【幼小学部】
	17	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	88	12	0	0	A	・コロナ禍の中であるが、学校運営協議会を通して具体的な活動(学校見学会、ささよう音楽会等)を展開できた。【学校改革】
	18	いじめ、不登校をなくすことをめざし、きめ細かな生徒指導が全教職員共通理解のもと推進できている。	5	95	0	0	B	・短期間で不登校(傾向)が改善することは難しいが、必要に応じて現状報告を行う。それ以外の事案についても、委員会でのようなことを話し合い、誰が、どう動くのかなど、必要と思われることを伝えるようにする。【生徒指導】

IV 教職員の資質向上研究推進	19	特別支援教育研究者や福祉関係者との交流・研修を積極的に行うことで、高い専門性を追求している。	24	76	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響によって、「交流」はどうしても制限がかかってくる。また、動作法などの体験的な研修も控えることになる。そういったことがA評価が少ない要因の一つだろう。今後、思春期以降の心理、ストレスマネジメント、登校渋り、SSTなどをテーマにした研修も必要である。【教育支援】 ・研修内容についてのニーズの検証し、その結果を研修実施に活かす。【教育支援】
	20	教職員の資質や専門性の向上を図るため、計画的な校内研修を実施している。	81	19	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に、校内研修の回数を年間10回としたが、そこに集約されない研修がいくつかできてきた。できる限り、部会、委員会などで検討し、研究推進を通して、実施していきたい。【研究推進】
	21	継続的にキャリア教育の研修を実施している。	62	38	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育フォーラムの大きなテーマではなかったが、キャリアの視点や個人チェックシートの活用についての研修の場となり、市内の教員からも指導のヒントを得たという意見が複数あった。今後も、フォーラムを研修の場として実施していく。【キャリア教育】
	22	研究テーマに沿って、授業力向上に向けた、主体的な授業研究ができています。	90	10	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの内容に基づいて、指導案の検討や事後研を行い、それぞれの学部が主体的に授業力向上に取り組むことができた。(研推) ・月目標やメールマガジンなどを通して、さらに情報を発信できるようにする。【研推】 ・モニターに月のテーマが表示され、意識することができた。【高等部】 ・校内研修については十分達成できたが、日々の授業で主体的になると改善の余地はある。【中学部】 ・研究授業後、課題やその後どうしていくかを話し合ったり出し合ったりする機会があればもっと学べるのではないか。【幼小学部】
	23	個々の課題や目標を明確にし、教職員のライフステージに応じた研修ができています。	7	93	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に行きたくてもクラスに迷惑をかけるかと思ってしまうが、年に1回くらいは自分の行きたい研修に行けるように協力してやっていければよい。【幼小学部】 ・個々の課題と目標を明確にするところからスタートするべきである。【中学部】

V 課題教育	24	教育活動全体の中で、相手を思いやる心を育て、生命の尊厳や人権尊重の精神を育成している。	93	7	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、外部講師を招き、中国の生活や文化についての学習が実施でき、異文化を体験することで国際理解を深められた。【教務】 ・道徳の時間をはじめ、学校生活のあらゆる機会を通じて、思いやりや命の大切さを育てる取り組みができています。【教務】
	25	発達段階に応じて、情報モラルの教育に取り組んでいる。	26	74	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部対象の情報モラル学習会を実施し、トラブルを回避するためのポイントや、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合の対処法を知ることができた。来年度も実施できるように、計画的に進めていきたい。【情報】
	26	給食指導を中心に、家庭と連携した食育の充実が図られている。	33	67	0	0	B	給食便りの表面を読んでもらえるように、配布の仕方を工夫したり呼びかけたりする。【食育】
	27	居住地、隣接校交流及び共同学習は、連携を深め、ねらいや活動内容を明確にした交流、共同学習となっている。	12	69	19	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部交流では、昨年度からリモート交流をしているので、計画通りに交流ができた。今後もコロナ禍の中、市教委の対処方針を基に、計画的に交流を進めていきたい。【保体】
	28	発達段階に応じて、安全教育・保健指導を実施し、安全で健康な生活が出来る基礎的な能力を育成している。	83	17	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練が様々な時間帯で実施され、より幼児生の身を守る動きが取れていると思われる。引き続き行っていきたい。【総務】 ・学部や個に応じた内容・方法で、保健指導等に取り組んでいる。【保健】 さらに推進できるよう、学部や担任と連携を進めたい。【保健】

VI									
VI 学校運営・学校管理	29	学校教育目標・指導の重点を意識し、その具現化に向けて取り組んでいる。	31	69	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほぼあてはまる」に比べて「ややあてはまる」が2倍程度多いのは、教員各自の意識が「具現化」に直結しているかどうか、という課題があるように思う。【学校改革】 ・モニターには目標が掲げられているわけなので、週始めの職朝において、月目標だけでも読み上げるのはどうか。意識づけが大切である。【学校改革】 	
	30	各種委員会・各部会の組織を強化し、学校運営の活性化に努めている。	83	17	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部会が各種委員会と同日の日が多く、勤務時間外に終了することが多いと感じた。総務部会では内容によっては時間がかかったり、屋根裏の落ち葉拾いなどを行ったりするので、部会だけの日を多くしてもらいたい。【総務】 ・部会と委員会が重なることで、勤務終了時間になり、その分のしわ寄せが金曜日に来るので、なるべく重ならないような予定組みを希望する。【児童生徒活動】 	
	31	学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。	62	38	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して学校評価を行い、課題や改善策などを確実に次年度に引き継いでいく。【教務】 	
	32	定期的な学校だより・学部通信等の発行、HPの内容の更新など、保護者や地域への情報発信ができています。	100	0	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もこの状況を継続する。【学校改革】 	
	33	市内の学校園に対して、専門的な支援や助言を行うなど、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。	81	19	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々ニーズが増えている中で精一杯対応している現実がある。個々の発達課題に係る相談だけにとどまらず、学級全体への支援に関する相談もある。また該当の子ども・保護者・学級に対して、継続的に関わってケースも増えてきた。来年度もこの流れは変わらないと予測している。【教育支援】 	
	34	ケース会議、研修会、各種行事等を活用して、外部関係機関との情報共有化を図り、連携強化に取り組んでいる。	55	45	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で十分なことができなかったことが、この数値に出ていると思われる。【学校改革】 	
	35	学校予算の適正な計画・執行、備品や施設の管理及び充実・改善に努めている。	64	33	2	0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各部や各委員会から意見集約を図り、予算の計画的な執行、備品の充実に努めることができた。【事務】 ・購入した備品について、職員全員で意識して適切な管理に努める必要がある。【事務】 	
	36	教職員の勤務時間や働き方を意識し、業務改善に取り組んでいる。	33	67	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の質を落とさずに業務量および業務に費やす時間を減らしていく、この背反するテーマを現実のものとするには、「これで十分だ」というgood enough 感覚を多くの教員が持ち、それを共有することが必要だと考える。 	